令和４年度事業報告書

事業所名：特別養護老人ホーム　彦岳の太陽

《 実施目標 及び 実施状況と今後の課題 》

１．　運営の安定化

令和4年度の稼働率の目標を 96.0%としたが、実績は 92.3%だった。令和3年度の 91.5%に比べると若干の増加であったが、目標には届かなかった。最もよかったのが10月で 94.7%、年末以降は 80%台が続く状況となった。原因としては、重度化による入院者の増加が挙げられる。平均の介護度が4.2となっており、重度化および医療の必要度は年々高まっている。グループの彦陽クリニックや佐伯中央病院と連携し早期の対応を行ってきたため、入院の長期化は避けられており、引き続き体調管理に努めていく。また、入院時の空床利用についても連携を図ることで積極的にすすめていく。

２．　介護の質の向上

接遇の向上については、令和4年度に身体拘束の事例は発生しておらず、引き続き入所者の尊厳を保持していきたい。また、令和4年度にはノーリフティング委員会を立上げ、抱えないケアを目指して活動を行っている。令和4年度はデイサービスの浴室にリフトを導入し、これまで抱えていた利用者様に、リフトを用いることで職員の介護負担の軽減を図った。また、腰痛予防のため療法士と連携し介護方法の見直しによる腰への負担軽減にも取り組んでいる。

今後は、入所についてもリフトおよびスライディングシートの検討をしており、早期導入により入所者の安全確保と職員の負担軽減を図っていきたい。

３．　人材育成

新人教育については、「新人教育マニュアル」を運用することで人材育成を図った。中堅職員教育については、係長、参事を中心に指導を行ってきた。引続き人材育成に努めていきたい。しかし求人活動については、ハローワークや大分県福祉人材センターへの登録をはじめ、福祉のしごとフェアや豊南高校の就職ガイダンス等へも参加してきたが、これといった成果をあげることができなかった。今後も職員不足の状況となることは十分に考えられることから、人材確保に向けた対策の強化が必要となっている。

４．　役割の明確化

役職者の役割については施設長、管理者、参事、主任等それぞれの役割の明確化に取り組んできた。これについては引き続き行っていく。また、令和4年度は看護の体制も変わったことから、介護と看護の役割についても検討を行ってきた。互いの職種が協力することで、よりよいサービスが提供できるようにしていきたいと考える。